



ピースデポ

平和資料協同組合

Peace Depot (Peace Resources Cooperative)

発行人：湯浅一郎 / 住所：〒223-0062 横浜市港北区日吉本町1-30-27-4 日吉グリーンネ1F
TEL:045-563-5101 / FAX:045-563-9907 / E-mail:office@peacedepot.org
郵便振替：00250-1-41182 特定非営利活動法人ピースデポ
銀行口座：横浜銀行日吉支店 普通 1561710 特定非営利活動法人ピースデポ

会報

No.22

2008.6.1

第9回総会報告

発足10周年に 世代交代で 新たなスタートを



湯浅一郎 (ピースデポ代表)

昨夏の参議院選挙での与野党逆転を背景に、自衛艦が補給した燃料のイラク戦争への転用問題で、ピースデポは国会論議に大きな一石を投じました。年末には韓国・江原道の非武装地帯 (DMZ) 平和賞特別賞を受け、発足からほぼ10年にピースデポが社会的に一定程度、認められることが立て続けに起こりました。

そうした中で、2月24日、全水道会館 (東京) で第9回総会を行いました。強風が吹きすさぶ寒い日でした。藤田明史さんの議長で総会成立を確認し、07年事業報告と収支決算報告を中村事務局局長が、その後、08年度事業計画案と収支予算案を湯浅が提案し、活発な質疑討論のあと双方とも採択されました。さらに役員改選が行われ、代表交代をはじめ、人事が大幅に刷新されました。

07年は、研究活動の質の確保のため、事務局2人スタッフ体制に復帰し、年度途中の予期せぬ寄付、受賞金などで、次年度に200数十万円を繰りこしました。しかし、会費納入・販売物取扱は予算比で合計110万円減。会員の入退会も入会34名、退会45名で正味11名減と厳しい結果です (06年度は正味12人増)。

10周年に新たなスタートを

08年は、昨年の社会的評価の高まりがある一方で、経営的困難が続くという状況を踏まえ、10周年という節目を活かして、新たなスタートを切る年にせねばなりません。その観点から、事業や組織体制の整備に関わって以下の2点を強調しておきます。

(1) 10周年事業の柱に北東アジア非核兵器地帯の促進を

発足以来、核廃絶世論形成を重点課題の一つとして取り組んできた経緯から、本年は、北東アジア非核兵器地帯促進に向けた取組みを「10周年事業」の柱として位置づけ、非核自治体との連携を強め、年間を通して取り組みます。

(2) 代表交代など世代交代を進め、組織体制を整備する

総会で決まった 今年の 主な事業計画

全文はホームページ www.peacedepot.org/whatspd/actvty1.htm に

◆基本方針

1. 「10周年事業」として「北東アジア非核兵器地帯の促進」を位置づけ、年間を通して取り組む
2. 自治体と市民の連携による力を引き出す取り組みの継続
3. 「モニター」刊行や出版事業の意義を再確認し、いっそうの社会的定着をめざす
4. 設立10周年に世代交代を進める
5. 会員・支持者とのネットワークの活用

◆事業プログラム

1. 核廃絶世論形成、特に「北東アジア非核兵器地帯」促進に向けた取り組みの強化を「10周年事業」の柱として位置づけ、1年を通じて取り組む
2. 「核兵器・核実験モニター」の発行
3. イアブック「核軍縮・平和2008」の発行と販路の拡大
4. 「ピースデポ・ブックレット」、「ワーキング・ペーパー」の作成
5. 米軍の動向調査
6. 海外活動への派遣、PNND支援など継続する活動

◆組織体制の整備

1. スタッフ体制
2. 運営委員会と将来計画委員会の継続
3. 会員、モニター購読者の拡大：数値目標の設定
4. 会員・支持者とのネットワークの拡充・活性化に向けた施策
5. 助成金・調査受託の開拓

総会では、佐藤治、茂垣達也、芝野由和氏の新理事就任が決定し、休憩時間の理事会で、代表に湯浅、副代表に横山正樹、田巻一彦が互選されました。世代交代を理由に退任した梅林前代表は、特別顧問としてモニター主筆、イアブック監修に関わります。10周年を機に、人的体制、組織体制、モニター編集体制等で世代交代を図り、それを意識した事業・組織体制が始まっています。

新代表として

梅林代表の退任に伴い私が代表になりました。核兵器、安保・基地問題などで総括的に世界を読み、市民の立場から質の高い情報を発信することは並大抵の努力ではできません。これまで私は、30数年、呉・広島で平和・環境問題に関わってきましたが、生活者、実践者に重心があり、国際的視野で全体を見る面での力不足は否めません。しかし、元々、ピースデポは、反トマホーク全国運動から生まれたもので、その問題意識を共有した人間が引き継ぐべきであると考えました。当面は経営を軌道に乗せることが最低限の仕事です。多くの努力が必要ですが、ピースデポが日本の市民社会に必要であることを理解し、支えようと思う人を増やすことが会員増につながると信じています。

市民が主役の社会を目指して進んでゆきたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。



代表退任のご挨拶

この度、NPO 法人ピースデポの理事会代表を辞しましたので、ご報告とご挨拶を申し上げます。



1990年に当時の市民運動「トマホークの配備を許さな！全国運動」の中から「平和資料協同組合」準備委員会が生まれ、準備委員長として取り組んで以来、丸17年となります。「ピースデポ」として正式発足したのが1998年ですので、ちょうど10周年に世代交代を果たすことができ、正直ほっとしたところです。

とはいえ、今後とも、特別顧問として、情報誌『核兵器・核実験モニター』の主筆やイアブック『核軍縮・平和』の監修などの仕事を続けながら、ライフワークである核兵器廃絶に取り組みたいと思っています。また、より自由な立場で若い世代との交流を深めること、1969年に科学技術者として同人誌「ぶろじえ」を創刊して以来の問題意識を整理し発展させることなど、これまで叶わなかったことに時間が使えそうだという希望に新入生のように胸を膨らませています。

新しく理事会代表に選出されました湯浅一郎さんは、準備委員会を設立したときからの同志の一人です。皆さま方これまでにも増したNPO 法人ピースデポへのご支援とご協力を心からお願い申し上げます。

2008年 春
梅林宏道

新スタッフの 塚田晋一郎です

会員、読者のみなさま、初めまして。4月よりピースデポ事務局スタッフになった塚田晋一郎と申します。勤務開始から2ヵ月が経ちましたが、この場を借りてご挨拶させていただきます。



私とピースデポとの出会いは、3年前の8月の広島でした。大学の平和学の講義をきっかけに、初めて広島・長崎を訪れ、広島で田巻副代表の講演を聞き、その会場でピースデポの会員になりました。

これまでに、イベントのお手伝いや、事務所でのモニター発送作業、イアブックや会報などの写真撮影、モニター誌面では、沖縄日誌をこの1年ほど担当し、学生インターンとして3年間、継続的にピースデポと関わってきました。その間、毎年8月の広島・長崎訪問を始め、05年NPT再検討会議（ニューヨーク）、World Peace Forum（バンクーバー、海外派遣プロジェクト）、韓国DMZ平和賞授賞式（梅林前代表に随行）など、様々な経験をさせていただきました。また、3年前に沖縄の辺野古を訪れて以来、辺野古と高江での基地建設阻止行動に関わってきた経験から、大学では現地の情報を発信するサークルを立ち上げ、活動してきました。昨年は2ヵ月間、現地で生活をし、ダイビングのライセンスを取得し、海に潜っての阻止行動もしました。ピースデポでの経験を含め、学生のうちに様々な経験をできたことはと

ても貴重だったと感じます。

今後はピースデポに活動の場を移し、先の見えない日本社会を少しでも良い方向へ進めていくため、日々精進していく所存です。ピースデポの面接の際に、田巻さんが話された「ピースデポの活動は情報闘争だ」という言葉が印象に残っています。これまで様々な現場で出会った方々や、仲間たちとのつながりをいつもどこかで感じながら、ここ横浜を、私の「現場」としていきます。また、思いだけではなく、ピースデポで働いていく上で必要とされる、情報収集・分析などの能力を培い、一日も早く、湯浅代表、田巻副代表、中村事務局長と共に事務局を運営し、様々なプロジェクトに取り組んで行く「チーム」の一員として取るに足る自分になれるよう、意欲的に取り組んでいきたいと思ひます。モニターの誌面上では、沖縄日誌を次世代の学生ボランティアの方にバトンタッチし、中村さんが担当されてきたインタビュー企画を、今夏以降担当します。種々の問題において、活躍されている方々の生の声を、みなさまにお伝えしていければと思います。

私の夢は、「核兵器禁止条約」が締結され、核兵器が廃絶に向け解体されていく世界を廻り、世界中の人々と笑顔で握手すること、また、沖縄の全ての基地が返還され、基地のない沖縄を視て廻りながら、沖縄の仲間たちと泡盛を飲み交わすことです。

最後になりますが、ピースデポの活動を日々、支えてくださっているみなさまに、心から感謝の意をお伝えしたいと思います。私がこうしてスタッフとなれたのも、将来の核廃絶のための自分の役割を認識できたのも、みなさまのおかげです。まだまだ拙い若輩者ですが、ピースデポの10年後を見据え、働いていきます。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

欠席の会員・助言者からのメッセージ

総会に向けて、今年も多くの会員の皆様から激励、ご提案をいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。メッセージの一部をご紹介します。できるだけ多くの方のメッセージを、という趣旨のもと、抜粋紹介のかたちになることをご了承ください。(敬称略・順不同)

- 軍事や外交は、国の専管事項とされてきましたが、ピースデポの情報や研究は、「市民や自治体でも、直接外国や軍隊に働きかけができる」という勇気を与えてくれます。(二宮敬嗣)
- 自衛隊によって供給された油がイラク戦争に転用されたという事実がピースデポの調査で明らかになり、マスコミでも大きく取り上げられたにもかかわらず給油新法が成立して、高まっていた世の中の関心が急に薄れてしまったのは非常に残念です。(鶴岡礼子)
- ピースデポの平和シンクタンクとしての位置づけに期待し入会しましたが、自衛隊の軍事力の解析情報が弱いと思います。憲法破壊が進行しているのを押し止め平和と生活を維持していく為には日本の軍縮が必要だと考えます。軍縮を行う具体的な目標、手段を考え、アピールする情報資料を期待します。(泉満)
- 既成政党や政治家に、この歴史的な転換期を乗り切る気概も能力もないのなら、心ある市民が声をあげ、力を結集して国の行方を決めるしかありません。ピースデポの存在意義がいよいよ重みを増す時が来たと思っています。世界の市民の意思を結集することが世界を動かす力となるでしょう。(白水滋)
- 「在日米軍基地は要らない」をピースデポの活動方針に入れたらどうでしょうか。軍事基地維持のため莫大な額の国民の税金が使われていますので、このことも国民にもっと知らせる必要があると思います。(松田常雄)
- 海上自衛隊の給油問題での独自調査はピー

クスデポの活動を、国民に深く印象づけました。スタッフの皆さんの地道な努力に心から感謝と敬意を表します。(平岡敬)

- 「非武装地帯(DMZ)平和賞・2007特別賞」の受賞お喜び申し上げます。スタッフの皆様への地道な活動に敬意を表します。(齊藤つよし)
- ここ何十年かの世界の推移を見てきて、もうひとつ大きい疑問がわきあがってくるのを抑えることはできません。例えば軍縮交渉というものが、核兵器禁止ということひとつをとっても、過去60年以上、何も進んでいないに等しいことをどう考えたらいいのか、といった疑問です。世界は止まっているのではなくて明らかに大きく動いていますが、それを動かしている力との関係で反戦平和の問題をどう解いていくのかと問題を立てる必要もあると思います。私はこのレベルの問題を正面から議論する場が必要ではないかという感じをもっています。ピースデポも含め、いろいろな活動をしている人々が、異なった機能や当面の課題をかかえつつ、十分な準備をして、横並びで議論を発展させるワークショップ(作業場)のようなものができないでしょうか。(武藤一羊)
- ファスレーン基地の封鎖に参加しましたが、核兵器廃絶の動きは日本国内のみでないことを実感しました。むしろ欧州の動きが日本で知られていないことを知りました。インド洋における自衛艦の給油問題や北朝鮮のミサイル発射時のイージス艦の動きなど、ピースデポの調査はすばらしいものでした。イアブッ

- クは期待しております。(森口貢)
- イラン・北朝鮮を始め、核の拡散が広がりつつある現在、平和利用と核兵器に関するピースデポの活動を広く日本国民が知って欲しいと考えます。(横山輝男)
- 東北アジア非核構想実現を支援いたします。軍事無用の世界を子や孫のため一日も早く実現しましょう。(西山敏和)
- 「モニター」は印刷がきれいになってとても読みやすくなったと思います。一つ要望・提案ですが、読者の投稿欄やイベント等の案内欄を設けてみてはいかがでしょうか。(華房孝年)
- 温暖化をはじめとする地球環境問題は待たなしの状況だと思います。戦争なんかしてる場合じゃない!という危機感が募ります。ますます役割が重要になってくると思います。(畑中由喜子)
- ピースデポがDMZ平和賞特別賞を授与されたことは誠に慶賀の極みです。ピースデポ10年に及ぶ主張が関係国中央政府を中々動かすだけの力を発揮できない中で、地域政府のこの賞を受けたことは大きな励みでしょう。在日米軍再編と日米軍事一体化の進展で沖縄、岩国、佐世保に見られるような米兵による暴力行為、軍事施設の存在そのものが市民に加えている直接間接の暴力という本質的な加害について各地で反基地・反戦の戦いが展開されています。是非調査や文献紹介をお願いしたいのです。ピースデポ10年の行動実績を心からお祝いし、感謝しつつ、なお一層飛躍することを期待しております。(荒川讓)
- 質の高い情報を提供しながら海自の燃料流用問題のスクープなどで、反核平和を願い活動する人々に指針を与えていただいていることに心より敬意を表します。(中島修)

総会 イベント 報告

ピースデポ発足10周年記念シンポジウム 「北東アジア非核兵器地帯の 可能性」(後援：日本平和学会)

150人余りの参加があり、北東アジア非核兵器地帯の可能性をめぐり、参加者による多角的な議論がなされ、盛況のうちに終えることができました。シンポジウムの後には懇親会を行い、ピースデポ発足10周年を記念して、集合写真を撮影しました。

総会に先立ち、2月23日に有楽町マリオン(東京都千代田区)で、総会イベント・ピースデポ発足10周年記念シンポジウム「北東アジア非核兵器地帯の可能性」を開催しました。日本平和学会にご後援をいただきました。

第1部の基調講演では、佐々木寛さん(新潟国際情報大学)による「北東アジア・平和の条件」に続き、梅林代表が「北東アジア非核兵器地帯の意義」という講演を行いました。

第2部の議員フォーラムでは、「核軍縮・不拡散議員連盟(PNND)・日本」の超党派の国会議員によるパネルディスカッションを行いました。(出席議員は、赤松正雄・衆議院議員(公明党)、阿部知子・衆議院議員(社会民主党)、猪口邦子・衆議院議員(自由民主党)、井上哲士・参議院議員(日本共産党)、平岡秀夫・衆議院議員(民主党)。議員フォーラムの詳細はモニター299-300号に掲載。)

第3部の市民フォーラムは「市民・自治体の役割」と題し、上原公子さん(前国立市市長)、田中熙巳さん(日本被団協)、丸山善弘さん(生活協同組合コープかながわ)によるパネルディスカッションを行いました。



